

# 夏季はクマに注意！



市街地でもクマが目撃されています

近年、クマは山林だけでなく、住宅地の近くでも目撃されるようになり、本年度市内では25件（6月16日現在）確認されています。クマによる農作物や家屋の被害、さらには遭遇した人を襲う人身被害も、昨年県内で報告されており、注意が必要です。

市内に生息しているのはツキノワグマ。もともとは臆病な性格のため、人を避けるように山の中で生活していますが、餌である木の実などが不作の時には食物を求めて行動範囲を広げ、人里に近づくことがあります。さらに、耕作放棄地の増加や、中山間地域の過疎化によって里山などが手入れされ

ず、クマの生息地と人の住む場所の境界が曖昧になってきていることも出没件数が増加している一因と考えられています。クマが潜みやすい場所や餌となる農作物の管理など、クマを呼び寄せない環境づくりが大切です。

## 細心の注意を

夏季は、山林内の餌が減少し、餌を求めて人里へ出てくるため、クマに出会う可能性が高くなります。また、クマの繁殖期にも当たるため、行動範囲が広がるとともに、オスの気性が荒くなっており、特に注意が必要です。

登山やハイキングなど、出掛けることが多いこの時期。クマの生態や行動形態を知り、被害を防ぐ対策をしっかり行いましょう。

## ツキノワグマの特徴



### 体長

110～150センチメートル（成獣）

### 体重

80～120キログラム（成獣）

### 特徴

足が速く、時速40キロメートル程度に達する。行動範囲は30～50平方キロメートル程度。植物中心の雑食性で餌は季節により異なり、山菜や昆虫、栗などを好む。子グマは生後1年半ほど母グマと一緒にいる

## クマに出会わないために

### ■ 出没情報の確認

新聞やラジオ、「クマ出没情報マップ」（市ホームページ「せんだいくらしのマップ」からご覧いただけます）を確認し、クマが目撃された場所にはできるだけ近づかないようにしましょう。

### ■ クマの活動する時間や場所を避ける

早朝と夕方の薄暗い時間帯はクマの行動が活発になるため、外出は控え、餌となる果樹やクマの隠れ場所となる河川敷、やぶの近くには注意しましょう。

### ■ 音を出し自分の存在を知らせる

山に入ったり川沿いに近づいたりする際は、鈴やラジオなどで音を出し、自分の存在をクマに知らせましょう。



## クマを人里に引き寄せないようにしましょう

- 果樹や野菜は早めに収穫する
- 家庭の生ごみを放置せず、管理を徹底する
- 家の周囲でハチの巣を見つけたら、除去する
- クマが潜みやすいやぶを刈り取る

## クマに出会ってしまったら

### ■ 慌てない！

遠くにいるクマを見つけたら、慌てず、クマに背を向けず向き合ったまま後ろにゆっくり後退します。距離が十分あけばクマも落ち着きます。

### ■ 騒がない！

クマに気付かれたら、騒がず、冷静になることが大事です。物を投げる、大声を出す、走るなどクマが興奮することは絶対にしないでください。

### ■ 近づかない！

子グマの近くには母グマがいる可能性が高いため、子グマを見ても近づいてはいけません。

### ツキノワグマ・イノシシ対策市民講座

- 日時—8月24日(土)14:00～15:30
  - 会場—たまきさんサロン
  - 内容—ツキノワグマおよびイノシシの生態や被害を防ぐ方法
  - 定員—40人〔抽選〕
- ※詳しくはお問い合わせください

問たまきさんサロン ☎214・1233

この特集に関するお問い合わせは、環境共生課 ☎214・0013、FAX214・0580